

2025年1月25日
13:30～16:30

繊維学会 第 713 回 理事会議事録

1. 確認事項

出席理事 辻井敬亘、濱田仁美、村瀬浩貴、松葉豪、中澤靖元、永田謙二、末信一朗、氏家誠司、内田哲也、武野明義、道信剛志、花田朋美、竹中幹人、木村睦、櫻井伸一、巽大輔、大松沢明宏、神山統光、出口潤子、増森忠雄、清水宏泰、森下美由紀、東城武彦、石澤仁志

監 事 大田康雄、小原奈津子

欠席理事・監事 増田正人、上高原浩、高崎緑、山崎睦生、小泉聡、香出健司、土田亮
(順不同、敬称略)

会 場 ハイブリッド開催 (対面:繊維学会事務局、オンライン (zoom))

理事 30 名のうち、出席理事 24 名、監事 2 名の出席を確認し、定款 36 条により本理事会は有効に成立した。本理事会は、ハイブリッドにて開催し、理事の意思表示は発言や挙手にて決議することを確認した。続けて、辻井会長が議長となり第 713 回理事会議事へ移った。

2. 審議事項

1) 会員入退会について・・・<資料 1>

1月10日(金)現在の会員数の詳細(正会員数984名(正会員915名、名誉会員17名、永年会員52名)、学生会員460名、維持会員10団体、賛助会員88団体)

- ・新規の正会員も増えてはいるが、今回、再度1000名以下に減少
退職など年齢による退会ではない方が増えていることが懸念される。
- ・2025年年次大会への発表登録、参加に関連して、学生会員の増加

【審議結果】

入退会報告について、正会員6名増18名退会、学生会員25名増1名退会、維持会員1社退会、賛助会員は増減無しで異議なく承認された。併せて、理事各位へ会員増強についての協力が求められた。

2) 2024年度本部収支見通しについて・・・<資料 2>

次年度予算案と支援金について・・・<資料 3>

- ・東北・北海道支部、東海支部、北陸支部 次年度支援希望 150,000円
- ・西部支部 300,000円

高分子学会・繊維学会西部支部ジョイントシンポジウム(2年毎に交互開催)

支部支援金として合計750,000円の支出予定

- ・染色研究委員会、医用材料研究委員会、超臨界研究委員会から未回答、確認中
- ・12研究委員会@50,000円、@25,000円 合計 525,000円の支出予定

【審議結果】

各支部、各研究委員会からの次年度予算計画に基づく行事予定について説明がなされ、上記支援金の提案について異議なく承認された。なお、例年に従い内部資金が100万円を超

える支部への支援はなしとすることも併せて承認された。また、内部資金が100万円を超える研究委員会へ支援については、相談のうえ、了解が得られた場合に同様の対応とすることで承認された。加えて、現状予算案が未提出の研究委員会については1月中の期限とし、再度提出を依頼することとし、該当の研究委員会への支援金支給については執行部判断とすることが承認された。新たに、会員増強にも大きく貢献し、大変活発な活動状況を鑑み、若手研究委員会への次年度支援金を予算申請依頼より多い20万円へ増額することも併せて承認された。

3) 研究委員会継続願について・・・<資料4>

・14研究委員会中、医用材料研究委員会、地球に優しい繊維材料研究委員会、堅ろう度標準化研究委員会については、本年度は継続願申請年度に該当しないため、提出なし。

【審議結果】

研究委員会規定に基づき、10研究委員会からの継続願いが提出された。活動状況と継続理由の詳細などから総合的に判断し、申請があった全ての研究委員会の継続が異議なく承認された。併せて、感覚と計測研究委員会については、本年度をもって廃止とすることで承認された。

4) 共催・協賛・後援等に関する内規（案）について・・・<資料5>

【審議結果】

共催や協賛に伴う予算外の費用が発生した場合の追加支援や利益の分配があった場合などに関しての判断は、運営担当副会長、財務担当副会長を中心とした執行部判断とすることとし、共催・協賛・後援等に関する内規（案）について、異議なく承認された。

定義に当てはまらない事案については、個別に運営担当副会長へ相談いただき、判断することとした。

5) スマートテキスタイル研究会の活動期間延長について・・・<資料6>

【審議結果】

スマートテキスタイル研究会規定に基づき、2度目の活動延長期間が終了する2024年までに本来審議するべきところ手続きができていなかった。非常に重要な分野でもあり、繊維系3学会の共同運営で活発に活動していることから、活動の継続（再度の延長）について異議なく承認された。理事からの意見として、スマートテキスタイル研究会にかかわらず、研究委員会の継続願い等の活動期間や各種書類の提出時期などの管理徹底と、チェック体制の構築について指摘があった。また、現状「1回のみ4年間延長できる、つまり2024年3月で終了」とも読めるという点について、研究委員会規定にこの曖昧性を解消するための附則などの検討についても指摘があった。

3. 報告事項

1) 80周年記念事業 ISF2024 国際シンポジウムについて

【発表・参加申込】参加者469名（国内417名（89%）、海外20カ国・地域から52名（11%））：中国、韓国、台湾、インド、ネパール、タイ、バングラデシュ、インドネシア、シンガポール、オーストラリア、米国、スイス、フランス、スペイン、ベルギー、

フィンランド、スウェーデン、デンマーク、ギリシャ、ポーランド)

・口頭発表 190 件 (内訳 Plenary 講演 4 件、招待講演 27 件) 一般講演 159 件

【Welcome Party】参加者 116 名 【Banquet】参加者 282 名

【展示】展示 22 社 (協賛企業 26 社中)

【1/20 時点 収支見通し】

収入

	当初予算	実績	予算比
参加登録費	15,571,000	17,432,800	+ 1,861,800
展示・広告	5,940,000	7,240,000	+ 1,300,000

支出

	当初予算	実績	予算比	
事前準備費	5,528,840	3,751,807	- 1,777,033	
当日運営費	12,746,476	11,489,348	- 1,257,128	
収支差合計				9,431,645

* 実績には今後入金予定の請求中分を含む

2) 2024 年度秋季研究発表会について

【発表・参加申込】

・参加者 307 名 (正会員 128 名、学生会員 139 名) 内 有料入場者数 267 名

・一般口頭発表 82 件、S3 繊維・高分子材料の物理 依頼講演 1 件、S9 若手産官学交流 SS 依頼講演 9 件、S10 繊維基礎科学研究委員会特別 SS 依頼講演 2 件、高校生 SS 12 件、第 60 回染色化学討論会 3 件

・一般ポスター発表 17 件、若手ポスター発表 (審査あり) 59 件

・発表合計 185 件

【広告】26 社

【1/20 時点 収支見通し】

	収入	支出	
参加登録費	2,001,220	-	
展示・広告	1,770,000	-	
会場・運営費		2,330,568	
収支差合計			1,440,652

3) 繊維系三学会合併協議について・・・<机上配布>

・公聴会開催および支部、研究委員会との懇談会の開催について

・2025 年 2 月 8 日臨時理事会開催について

→ 6 支部、若手研究委員会、企業理事との会長懇談会を開催し、様々な意見交換をおこなった。そこで出された意見を反映した財務グランドデザインと、第一次合併協議案への指摘事項まとめを作成し、それについて会長より説明された。理事から、下記コメントがあった。

・支部内では、合併に関して好感触であると感じている。ただ、合併の有無にかかわらず、繊維学会誌についての懸念している。繊維学会の規模で、毎月学会誌を発行す

るのは今後、段々と困難になるのではないか。個人的にはオンライン（電子化）でいいのではないかと思うが、様々な意見がある中で、支出の占める割合も考えながら慎重な議論、検討が必要と考えている。

- ・合併検討に際し、「うち」とか「あっち」という議論については早期に脱却しないと、前向きな議論ができないのではないか。支部活動は非常に重要であるが、他学会を考えた時に、活動が機能していないところもあるので、支部の構造自体についても検討が必要ではないか。

- ・個人会員に学会への帰属意識を持っていただけるかはすごく重要なので、ネットワーキングとか若手支援、研究委員会の強化などをより一層重要視してほしい。年次大会などのイベント強化はすごく重要。また、表彰制度も帰属意識を持ってもらう観点からも非常に重要なポイントと考える。

- ・アカデミックな会員も限られる中で、若手も少なくなっており、企業会員からの協力も得られない状況になりつつあることを感じていることから、合併の有無に関わらず、支部のアクティビティが低下していることが懸念事項。今後、少ない数の中でも、どのように活性化させていけるかの方策を考えている。

- ・支部の感触としては、是非賛成とか是非反対とかそういう段階ではないと考える。まずは、これまでも議論されてきているテクニカルな問題が解決できていないので、その部分をどうクリアしていくかが重要ではないか。会員数についても、重複があるので必ず小さくなることは間違いない。例えば支部だけ考えても、割り方次第では、若い先生への負担より大きくなることを不安視されているのも感じ取れることから、広く情報公開をして、まずは会員からの心配や指摘をどのように払拭していけるかが重要ではないか。

- ・支部会員から、明確な反対意見は聞いてないが、環境の異なる学会が合併するとなると、実際には色々な不都合が生じることや、細かな調整が必要になることは想定される。ただ、その中でも、可能な限り調整していくのでよいのではないかとの意見はいただいている。気がかりな点としては、やはり繊維学会誌と事務局の在り方。最初に2事務局を置かれたとしても、ある程度の期間後には1箇所にすることが望ましいとの意見は支部会員からの意見として聞くことが多い。もし統合したとしても、ある程度の問題は残るので、それをどのように調整していくかを上手く説明できるのがよいのでは。まずは、合併する以前に、合同の研究発表会や、一緒の取り組みができると、その場で意見交換ができ、交流のきっかけになるのではないかと感じている。

- ・学会誌の発行回数や電子化について、ぜひこの機会に会員からのご意見を集約できるとよいのではないか。

- ・そもそも、初めから合併の全てがうまくいくわけではないので、合併できないほどの大きな理由があるのであれば聞きたいと思って公聴会にも参加した。予算の見積りや人員についての意見が多々あることは承知しているが、やはり初めからきっちり予測するのはかなり難しい。これから新しい学会を作って、更に頑張ろうとしているところ、人を減らす案で頑張ろうということ自体が既に議論としておかしいのではないか。今いる人員では足りなくなるくらいの案で、新たな学会を作るスタンスでない

と、若い人には響かないようにも思う。もっとプラスな方向に目標を設定できるというのではないか。

・3つが一緒になることは、川上、川中、川下で繊維の基礎から応用、そして製品までの流れができるのは非常にいいことだと将来構想の議論をする上で、ネガティブな意見はなかった。WG内では、非常に建設的な議論ができたと思っている。あとは、将来構想のビジョン、ミッション、アクションプランを修正し、肉付けして実現に向けて進めていけるとよいのではないか。個人的な意見としては、公聴会で採めているのでは？と感触を受けることが一番問題では？もちろん、合併前に解決すべき課題である財務については、社労士を入れていろいろ意見いただき、公平な立場のプロの方から意見をいただくことが非常に重要と思う。

・公聴会でも経費の問題についてかなりの的確な指摘を受けた印象が強い。今回は、公聴会での説明資料がより具体化されて、わかりやすくなった印象を受けた。合併後の支部、研究委員会の整理は必ず必要で、より濃度が濃く、活発な活動につながるのではないかと期待している。特に、川上、川中、川下で、研究委員会同士も連携できるような仕組み作りができることが望ましい。活動へ参加していただくことで、会員の皆様により身近な学会と感じていただき、ひいては、それが若手の会員増強の足がかりになればとも思う。

・表向きの合併の目的とは別に、50年、80年の歴史を持つ繊維を中心とした学会を残す、多分それが本当の目的であり、これをもう少し表に出したほうがいいような気がする。出版、行事、歳費や支部活動とかのお金の話は置いておいたとして、そこにどれ位の大学や企業の人に関わっていて、どれ位の時間を使って活動を支えているのかが見えていない。それが、三学会に対して三倍であり、非常にしんどい状況であることもよくわかるので、データを集めて、現状皆さんにどれくらいの負荷をかけているのかを見える化した方がいいのではないか。それを踏まえて、この議論を続けていくのか続けていかないのか、ネガティブな目的になるかもしれないが、それも見据えて、色々なご意見がある先生方も含めて議論したらどうか。

大学もこれからどんどん人が減っていき、企業ももっと大変な状況になる中で、学会活動どうやって支えるのか、持続可能性をヒューマンリソースとしての未来像を少し考えた方がいいのではないか。

・前回も合併に関して、一般会員の多くはそこまで深く考えておられず投票されたと思う。今回も、投票した場合、同様に深く考えず投票する方がいる一方、強いご意見をお持ちの方になびいてしまうこともあると思う。まだまだ情報が広く伝わっていないことも事実で、ホームページや学会誌、様々なツールを利用して、議論している情報をよりタイムリーに公開する努力をするべき。

・学会活動はアカデミアプラスそれを支えてくださっている繊維関連の企業、活動を進めるためには両輪が必要と理解している。ただ現状は、繊維学会の活動に対して企業の方々が参加の数が少ないと聞くこともある。かなり以前（20年前とか）は、非常にいい関係を築いておられたとのこと、その頃の企業との付き合い方をしているのが繊維機械学会だと聞いている。事務局が多いから統合しないといけなようなネガティブな話になりがちだが、そういう事務局体制がしっかりしている、アカデミア以外へ

の啓蒙活動が充実しているのも重要ではないか。実際には、参加したことはないのかわからないが。今後は、企業の方々のための勉強会とかの拡充が必要不可欠。

・会員が一番懸念しているのは財務の問題だと思う。その中で、年会費が10,000円になると聞かされたら、やはり高くなると感じる人も多いのではないか。やはり、我々では財務の明確な数値を出すのは難しいので、外部のプロフェッショナルに依頼し、整理していた上で、会員の皆様にご理解いただくのが一番大事なことはないか。

・企業側の苦しい状態はユニチカさんの退会にも象徴されているところ。前回の合併協議以降、社内で整理をし、弊社は賛助会員口数を減らすという行動をさせていただいた。現在も行事への協賛を控えるなど、余裕のない状況は以前と変わらず、もし、今回上手くいかないとなると、3学会のどこかを抜けることも考えている。統合しない理由が全くわからず、アカデミアの論理みたいなことを言われ、非常に強く考え方の差を感じている。そういうところから、企業とアカデミアの距離がどんどん広がって、今に至るのではないかなと思う。どちらかが悪いと言うつもりはなく、結果として今こうなっている状況。議論に時間がかかるのも仕方ないこと、辻井会長を筆頭に皆さん努力されているのも理解できるが、やはり企業は収益企業ですので待ってられないという状況があるのも事実であり、そこのところをご理解いただきたい。

・将来的にも人口減少が進み、会員数も同様に減っていく状況は避けられ無いことは容易に想像できる。当然企業としても、採用が取りにくくなる状況も同じで、学会が3つあるとこのままでは、どこかが倒れることになりかねない。そう考えると、やはり統合しか選択肢はないのではないかなと思う。ただ、前回否決されていることは事実で、やはり会員に理解いただくことは重要と思う。あとは、財政面が課題かと思う。固定費の見直し、事務局問題など挙げられているので、指摘に対してどのように説明し、理解いただくことが、結果として賛成票にもつながるのではと考える。

・WGに参加している方々は様々な状況が理解できているのかもしれないが、多くはビジョンとかが見えていない状況なのではないか。繊維学会としての考え、他の二学会の考えをもっと会員へ伝えられるとより理解が得られるのではないか。

4) 学会賞各賞選考委員会開催について

・2025年2月15日(土) 選考委員15名にてオンライン開催予定

・学会賞1件、技術賞1件、奨励賞2件、功績賞1件

→選考委員会の結果については、3月の理事会にて承認予定。

5) 企画委員会について

【2024年度繊維応用講座】

・～合成繊維のサステナビリティを考える～

・1月22日(水) オンライン開催

・参加登録者113名

・経産省製造産業局生活製品課からの講演含む5件

→講演を通して90名を超える方々に参加いただき、大変盛況であった。また、多くの方から見逃し配信の希望もいただいた。

6) 報告・連絡事項

① 東北・北海道支部(支部長 松葉理事)

- ・ 繊維学会北海道紙・パルプ技術懇談会（共催）2024年12月13日（金）を開催。
 - ・ 2025年10月27日、28日の秋季研究発表会の実行委員会立ち上げ準備中。
- ② 関東支部（支部長 中澤理事）
- ・ 2027年年度大会準備状況について、道信理事から発表募集への協力を依頼。
 - ・ 2024年度関東支部講演会を12月6日（金）開催し、土壌、環境環境に関する講演と学生発表7件で参加者は78名。
- ③ 東海支部（支部長 永田理事）
- ・ 第37回東海支部若手繊維研究会（共催）を2024年12月6日（金）に開催し、参加者は70名、口頭発表は20件。
 - ・ 色材アドバンスセミナー2024（協賛）2024年12月12日（木）開催。
 - ・ 東海支部講演会を2025年3月19日の午後に開催予定。会場は名古屋工業大学。
- ④ 北陸支部（支部長 末理事）
- ・ 繊維学会北陸支部・日本繊維機械学会北陸支部 研究発表会（共催）2024年度研究発表会を開催。
- ⑤ 関西支部（支部長 上高原理事）
- ・ 第45回関西繊維セミナー、京都伝統産業ミュージアム見学会2024年12月13日（金）に開催。
- ⑥ 西部支部（支部長 氏家理事）
- ・ 2024年度セルロース学会西部支部・繊維学会西部支部合同セミナー（主催）2025年1月10日（金）を開催し、参加者は80名程度。
 - ・ 2025年夏季セミナーを9月4日（木）-5日（金）の予定でビーコンプラザ別府にて準備中。
- ⑦ 研究委員会関係について
- ・ 感性研究フォーラム研究委員会
第60回「感性研究フォーラム」講演会 年間テーマ『ジェンダーと感性』
2025年3月12日（水）13:30~16:15 オンライン開催 参加者募集中
- ⑧ ATC-17について
- ・ 台湾・台中にて2024年12月17日（火）-19日（木）に開催
 - ・ 対面、オンラインを含む150名程が参加
 - ・ 繊維学会からはKeynote Speakerとして内田哲也理事（岡山大）が講演
 - ・ FAPTA会議も開催され、次回のATC-18は韓国繊維学会を中心とした開催の決定
 - ・ ATC-17の開催報告はFAPTA議長・荻野賢司先生により繊維学会誌へ掲載予定
- 7) 各委員会からの報告について
- ① 運営委員会
→ 開催なし、報告事項なし
- ② 将来構想委員会
→ ビジョン「心踊る集いの場へ」、ミッション「学会の魅力向上、新分野開拓、学術と技術の伝承（人財育成）、会員増強運営基盤強化」、アクションプラン「情報共有発信プラットフォームの構築、事業のさらなる充実、ロードマップの作成及び実行、国際連携の強化、学術講座事業のリニューアル、未来のリーダー育成、維持、

賛助会員へのサービス向上および非会員、有識者への勧誘、学会運営の効率化による財政の健全化」現在は、主に、アクションプランの中身について、実行策を委員各位と議論中。3月の理事会にもご提案し、承認後には会員とも共有の予定。

③ 国際連携委員会

→ 委員会の開催はなし。ISF2024でも講演いただいた国々（インドネシア、タイ、シンガポール）各国とも連携を進めたいが、それらの国には繊維学がないという現状。今後、どのように学会間でやっていくのかを、今後理事会にて提案予定。

8) 編集委員会からの報告について

① 繊維学会誌

→ 内田編集委員長より順調に発行されていることが報告された。

② 論文誌 JFST

- ・論文賞選考委員会
- ・JFST ISF2024 特集号進捗

→ 去年のJFST投稿数28報（一般論文18報、レビューが2報、ノート2報、技術論文6報。全体のうち、英語論文20報、日本語が8報。これらから論文賞の選考委員会を開催すべく準備中。JFST2024 特集号についても投稿可能、広く論文を集めていと考えていること、報告された。

9) その他案件

① 学会誌広告掲載計画と協力要請の依頼について・・・<資料8>

辻井会長、事務局より協力依頼

② 繊維学会誌第三種郵便について

→ 郵便局との契約を見直すことを検討中。第三種郵便としてではなく、「ゆうメール」を使って学会誌を送付することを、金額を含め、印刷会社と郵便局とで協議中。

③ 今後の理事会日程について

2025年2月8日（土）13:00-15:00 臨時理事会（ハイブリッド開催）

2025年3月22日（土）オンライン開催

2025年5月24日（土）、（総会6月13日（金））、9月20日（土）、

11月15日（土）、2026年1月24日（土）、3月21日（土）

【学会賞選考委員会】

2025年2月15日（土）オンライン開催（東京）

【監査委員会】

2025年4月26日（土）対面開催（東京）

④ 今後の学会行事担当について

*2029年6月年次大会 別会場手配について要検討

	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年
年次大会	関東支部	関東支部	関東支部	関東支部	関東支部
夏季セミナー	西部支部	北陸支部	東海支部	東北・北海道支部	西部支部
秋季研究発表会	東北・北海道支部	関西支部	関西支部	関西支部	関西支部

4. 監事コメント

【大田監事】まず、ISF2024について、大きなトラブルもなく、収益も非常に多大な貢献があったとのこと、運営委員、特に若手の皆さんの組織力を垣間見た気がします。今回のノウハウや、準備段階の課題などを時系列にまとめるなどして、10年後のISFの参考になるよう、貴重なアセットとして残されるのがよいかと思います。3学会の合併については、理事各位からのコメントの通りかと思います。理事会としては、非常にオープンに議論が進められていると感じています。公聴会へ参加されている方が限定的であったこと。やはりこの問題について承知されていない方もたくさんおられたのではないのでしょうか。新しいものへの恐怖や躊躇を感じると思いますので、まずは2月8日の臨時理事会でぜひそれぞれの立場からの意見を発言いただき、繊維学会全体の集約できる議論をお願いしたい。

【小原監事】

今回は、スマートテキスタイル研究委員会の活動期間延長についての議論があったが、何か問題が発生した際には、その問題の再発防止策をどうするかを必ず考えていただきたい。それをすることによって、組織全体がだんだんと改善され良くなっていくのではないかと思う。三学会の合併については、監事の立場から賛否は申し上げられませんが、公聴会には2回参加してお話をお聞きしました。そこで出された課題について、執行部の方で少しずつでも検討し、改善されている様子が伺えて良かったかなと思う。3学会が合併された時に事務局も、もちろんイベントに関わる会員の皆様方の負担を少しでも軽くする方向で検討していただくことも必要かと思う。その為には、業務内容の見直し、DX化も含めて見直し、刷新することが不可欠である。研究委員会や支部もイベントをプラスするのは簡単ですが、引いたり止めることをなかなか決意しにくい現実もある。古いものは全部捨てるわけではないが、この機会に在り方や運営方法を見直していくことをお願いしたい。

【土田監事】 ご欠席

【第713回理事会 議事録署名人捺印】

議長: _____ 印

監事: _____ 印

監事: _____ 印

監事: _____ 印